

2025(令和7)年度 岐阜聖徳学園大学／短期大学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

2026(令和8)年3月27日

この自己点検・評価結果は、2025(令和7)年度岐阜聖徳学園大学数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)プログラムについて、全学教務委員会において自己点検・評価を実施したものである。

2025(令和7)年度自己点検・評価対象科目(プログラム対象科目)

学部	科目名	単位数
教育学部・外国語学部・人文学部 経済情報学部・看護学部 ・短期大学部	ICT基礎／教育学部、看護学部、人文学部	1単位
	コンピュータ科学基礎／経済情報学部	1単位
	情報処理／短期大学部	2単位
	データサイエンス入門／全学 ※MDASHリテラシーレベル認定	2単位
	データサイエンス基礎／全学	1単位
	データサイエンス(教育活用論)／教育学部	1単位
	データサイエンス(ことば)／外国語学部	1単位
	AI実践演習Ⅰ／経済情報学部	1単位
	データサイエンス(DX看護)／看護学部	1単位

○評価基準【S・A・B・C】  
 評定S：優れた点があり、十分に行われている。  
 評定A：概ね成果を上げられており、相応である。  
 評定B：計画・目標どおりではないがある程度成果が上げられた。  
 評定C：改善の必要がある。

点検・評価項目	取組内容	点検・評価結果		改善・向上に向けた計画
		評定	理由	
プログラムを構成する科目(必修科目)の履修・修得状況	本学では、MDASH認定の「データサイエンス入門」の前に、情報活用の基礎的な内容を取り扱う「ICT基礎」又は「コンピュータ科学基礎」を、各学部において開講している。履修状況及び修得状況は次のとおり。	B	「ICT基礎」及び「コンピュータ科学基礎」の履修者及び修得者の状況は、次のとおりである。(2026.2.18現在のデータに基づき算出) ①「ICT基礎」(必修科目 開講期：R7年度1年次前期) (履修者数/対象在学生) 人文学部 122/126名 96.8%(修得者69名 56.6%) ②「ICT基礎」(選択科目 開講期：R7年度1年次前期) (履修者数/対象在学生) 教育学部 242/389名 62.2%(修得者235名 97.1%) 看護学部 33/77名 42.9%(修得者32名 97.0%) ②計 275/466名 59.0%(修得者267名 97.1%) ③「コンピュータ科学基礎」(必修科目 R7年度1年次前期) 経済情報学部 174/174名 100%(修得者147名 84.5%) ※休学者、科目等履修生、過年度生を除く。	令和7年度から教育学部・看護学部において「ICT基礎」は選択科目となった。「データサイエンス入門」の履修前に修得することが望ましいため、全学教養教育委員会と情報共有をし、修得率の向上を図る。人文学部の「ICT基礎」の修得率については、極端に低いことから担当教員に現状を確認した。現状、補修等の対応を行っているが、今後も継続的にフォローを行い、修得率向上に向けた改善に努める。
「データサイエンス入門」(必修科目)の履修・修得状況	本学では、(MDASHリテラシーレベルの認定を受けた(以下、省略))「データサイエンス入門」を、全学必修科目(開講期：1年次後期)として開講している。履修状況及び修得状況は次のとおり。	A	「データサイエンス入門」の履修者及び修得者の状況は、次のとおりである。(2026.2.18現在のデータに基づき算出) 「データサイエンス入門」(必修科目 開講期：R7年度1年次後期) (履修者数/対象在学生) 教育学部 383/389名 98.5%(修得者374名 97.7%) 人文学部 121/126名 96%(修得者109名 90.1%) 経済情報学部 174/174名 100%(修得者153名 87.9%) 看護学部 77/77名 100%(修得者76名 98.7%) 計 755/766名 98.6%(修得者712名 94.3%) ※休学者、科目等履修生、過年度生を除く。	「データサイエンス入門」は全学必修科目のため履修率は高い(94.3%)。修得出来なかった学生の傾向や、履修学生の理解度を把握し、次年度以降に理解が不足している部分を補正する等、「データサイエンス入門」を修得する学生をさらに増やす。
プログラムを構成する科目(選択科目)の履修・修得状況①	本学では、「データサイエンス入門」の他、より発展的な内容を取り扱う「データサイエンス基礎」を開講している。履修状況及び修得状況は次のとおり。	C	「データサイエンス基礎」の履修者及び修得者の状況は、次のとおりである。(2026.2.18現在のデータに基づき算出) 「データサイエンス基礎」(選択科目 開講期：R7年度2年次前期) (履修者数/対象在学生(R7年度前期2年生)) 教育学部 28/384名 7.3%(修得者28名 100%) 外国語学部 4/75名 5.3%(修得者4名 100%) 経済情報学部 11/150名 7.3%(修得者11名 100%) 看護学部 3/81名 3.7%(修得者3名 100%) 計 46/690名 6.7%(修得者46名 100%) 短期大学部 2/36名 5.6%(修得者2名 100%) ※休学者、科目等履修生、過年度生を除く。	「データサイエンス基礎」の履修率については、大学においては6.7%と低い。当該科目については、来年度は学生が履修しやすい時間帯に時間割を変更し、履修率向上を図る。また、新入生に対しては担当教員からオリエンテーション時に、本プログラムの概要の説明、デジタルバッジの付与、就職活動への活用について説明を行い、履修率向上に繋げる。
プログラムを構成する科目(専門選択科目)の履修・修得状況②	本学では、「データサイエンス入門」、「データサイエンス基礎」の他、各学部独自のデータサイエンス科目を開講している。履修状況及び修得状況は次のとおり。	C	各学部独自のデータサイエンス科目の履修者及び修得者の状況は、次のとおりである。(2026.2.18現在のデータに基づき算出) 「データサイエンス(教育活用論)」/教育学部(選択科目 開講期：R7年度2年次後期) 履修者 2/384名 0.5%(修得者2名 100%) 「データサイエンス(ことば)」/外国語学部(選択科目 開講期：R7年度2年次後期) 履修者 2/75名 2.7%(修得者2名 100%) 「AI実践演習Ⅰ」/経済情報学部(選択科目 開講期：R7年度3年次後期) 履修者 33/162名 20.4%(修得者33名 100%) 「データサイエンス(DX看護)」/看護学部(選択科目 開講期：R7年度2年次後期) 履修者 25/81名 30.9%(修得者25名 100%) 計 62/702名 8.8%(修得者62名 100%) ※休学者、科目等履修生、過年度生を除く。	各学部独自のデータサイエンス科目の履修率は、昨年度から増加はしたが8.8%と低い。また、授業評価アンケートから、開講年次生だけでなく上位学年の学生が履修していることが確認された。そのため、開講年次に限らず上位学年の学生も履修可能であることを併せて周知し、関心を持った学生の履修促進に繋げる。
学修成果	「データサイエンス入門」の学修成果は『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査により、授業の難度、内容や方法の適切性を検証することとする。また、学修者の学修活動にどう貢献するかを検証するため、より発展的な内容を取り扱う「データサイエンス基礎」や、各学部独自のデータサイエンス科目の履修者のデータを活用する。	B	2025年度実施のアンケートの結果は、次のとおりである。 ・自らがデータ・AIを扱う上での倫理的・法的・社会的課題について主体的に検討できる。 63.0% ・自らがデータ・AIを扱う上でのセキュリティや情報保護において注意すべき点を理解した。 78.5% ・生成系AIの使用法や限界について理解し、場面に応じた適切な活用ができる。 76.2% 総じて7割程度が【非常にそう思う】、【どちらかといえばそう思う】と回答した。	「データサイエンス入門」を修得した学生が、より発展的な内容を取り扱う「データサイエンス基礎」や、各学部独自のデータサイエンス科目を履修したことで、どのような成長実感を得たのか、DX推進センター運営委員会及び全学教務委員会で連携して継続的に検証する。

<p>学生アンケート等を通じた学生の理解度</p>	<p>「データサイエンス入門」の受講者に対して『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査を実施しており、学生の理解度や学修意欲等を把握し、授業内容及び方法の改善を図っている。 「データサイエンス入門」の理解度については、モデルカリキュラムの①導入、②基礎、③心得に関連する部分の理解度を測る設問を設け、授業における学生の理解度を把握することとする。</p>	<p>B</p> <p>2025年度実施のアンケートの結果は次のとおりである。 ①導入への理解度1) データ・AIの活用について、社会の変化に伴う最新の動向と必要性を理解した。 78.0% 2) 様々なデータ・AIの活用例において、どのような技術(手法)がどのような目的で用いられているか理解した。 78.9% ②基礎への理解度1) 自らがデータ・AIを扱う上での倫理的・法的・社会的課題について主体的に検討できる 63.0% 2) 自らがデータ・AIを扱う上でのセキュリティや情報保護において注意すべき点を理解した。 78.5% ③心得への理解度1) データがもつ情報の意味(価値)を理解し、目的に応じた加工処理・可視化を行うことができる。 62.5% 2) データが示す特徴や傾向を客観的に読み取り、相手に正しく説明できる。 59.3% 総じて7割程度が【非常にそう思う】、【どちらかといえばそう思う】と回答した。</p>	<p>継続的な評価検証のため、次年度も理解度把握を実施し、全体の理解度の向上を目指す。</p>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度</p>	<p>『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査を用いて、「データサイエンス入門」の他の学生への推奨度を聴取している。また、より発展的な内容を取り扱う「データサイエンス基礎」や、各学部独自のデータサイエンス科目の履修の促進も考慮する。</p>	<p>B</p> <p>「データサイエンス入門」の『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケートの＜今回の講義を友人や後輩に推奨したいと思いますか＞に対する回答は次のとおりである。 【非常にそう思う】 27.5% 【どちらかといえばそう思う】 40.5% 約7割の学生が、他の学生に「データサイエンス入門」を推奨した。</p>	<p>「データサイエンス入門」は全学必修科目のため履修率は高い。『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査で聴取する推奨度について、今後の改善・向上を通して【非常にそう思う】、【どちらかといえばそう思う】と回答する受講者の割合が7割以上となることを目標とする。 さらに、当該科目について、修得者の声をHPで発信する等、学びに対する魅力を発信することにより、履修率の向上を図る。</p>
<p>全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>「データサイエンス入門」については、『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査、地元産業界等からの意見も踏まえ、2022年度から新たに開設した。全学必修科目として開講したため、全学部の1年次生が履修するプログラムとなっている。</p>	<p>S</p> <p>「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を第一に考え、文系・理系を問わずすべての学部、すべての学年の学生が履修できるプログラム(シラバス)とすることにより、全学的な履修者数、履修率の向上を図った。</p>	<p>「データサイエンス入門」は全学必修科目のため履修率は高い。次年度以降も同様のプログラム体制を継続する。</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>「データサイエンス入門」は全学必修科目となっていることから、本学では独自の観点として、「データサイエンス入門」を修得し、より発展的な内容を取り扱う「データサイエンス基礎」や、各学部独自のデータサイエンス科目を修得した学生を対象として、卒業後の進路状況を検証することとする。 就職課が把握している卒業生の活躍状況を収集するとともに、本学が実施する『企業向けアンケート(本学出身者に関するアンケート)』により、本学出身者に対する企業の評価を把握できるよう検討する。</p>	<p>-</p> <p>「データサイエンス入門」、「データサイエンス基礎」及び「データサイエンス(各学部の独自科目)」をすべて修得した人数は28人(大学)である。</p>	<p>「データサイエンス入門」を修得し、より発展的な内容を取り扱う「データサイエンス基礎」や、各学部独自のデータサイエンス科目を修得した学生を対象として、卒業後の進路状況を継続的に検証する。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学では、毎年地方自治体や地元産業界等と、各種要望や地域の課題を共有するとともに、今後の経済・社会の発展をもたらす高等教育の在り方について意見聴取することにより、本学の自己点検・評価及び教育研究水準の向上に資することを目的とした「地域連携協議会」を実施している。本会において社会人の学び直しに関する内容や、数理・データサイエンス・AI教育に係る意見聴取を行っている。 聴取した意見については、教育プログラムを改善・進化させるため、デジタルトランスフォーメーション(DX)推進センター運営委員会や、教育プログラムの自己点検・評価を行う全学教務委員会等で共有され、検証・改善に活用している。</p>	<p>A</p> <p>2025年6月12日に開催された「地域連携協議会」において、本学が連携協定を締結する地方自治体や、地元産業界等に対して、「学生が身に付けるべきAI・データサイエンス等に関する能力」や「企業等におけるAI・データサイエンス等の活用事例」に関する意見聴取を行った。また、同意見聴取内容等については、「デジタルトランスフォーメーション(DX)推進センター運営委員会(2025年8月29日開催)」において、プログラム検証の参考とした。</p>	<p>今後も同取組(地域連携協議会)を継続的に実施し、産業界等からの意見聴取を行うことで、教育プログラムの改善に活用する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「データサイエンス入門」のモデルカリキュラム(リテラシーレベル)において、導入部分であるデータサイエンスの活用事例を紹介することにより、履修学生の興味関心を高め、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」への理解を促している。 また、課題等の提出物や、『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査結果を活用することで授業改善を図っている。</p>	<p>A</p> <p>「データサイエンス入門」において、データサイエンスの活用事例を紹介することで、履修学生の興味関心を高め、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」への理解が促進された。 また、課題等の提出物や、『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査結果を比較する等、授業改善に活用することができた。 自由記述抜粋 ・データサイエンスと聞いて難しいと思ったのは最後まで変わらなかったけど、データがさまざまな分野で使われていることが知れたのでよかったです。 ・データサイエンスは、自分にとって苦手なところでもあるので、これからも学習を続けたいと思った。 ・データの重要性、必要性を講義の中で演習などを通してながら学ぶことができた。 ・難しいことが多かったですが、調べることができました。データのことなど詳しく知ることができた。</p>	<p>「データサイエンス入門」の履修学生が興味関心を示すような、実例・実データ等を用いることによって、数理・データサイエンス・AIの「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させられるよう、今後も内容等の検討を続けていく。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>「データサイエンス入門」の内容・水準の維持・向上に向けては、デジタルトランスフォーメーション(DX)推進センター運営委員会において、モデルカリキュラム(リテラシーレベル)の内容が、シラバスに含まれていることを確認するとともに、課題等の提出物や、『学生による授業評価アンケート』及び独自のアンケート調査の＜理解度について＞の回答等から、履修学生の理解度を把握し、講義の内容について検討を行い、分かりやすい授業となるよう工夫している。</p>	<p>A</p> <p>効果的な遠隔授業システムやオンデマンド授業の活用、ゲストスピーカーによる最新事例の紹介など、履修学生の理解度を把握し、分かりやすい授業となるよう改善に努めることができた。</p>	<p>数理・データサイエンス・AIに苦手意識のある履修学生に分かりやすい授業となるよう、イラスト、映像、身近な具体例等を用いることで、今後も内容・水準の維持・向上を図っていく。</p>